

## 2023年度ラスタ教養大学「マスターズコース」スケジュール

回数・講師	テーマ・講座概要
<b>第1回</b> <b>7月21日</b> 福井 道剛 山城経営研究所 特任研究員	<b>【身近のICT】</b> 昨今の情報や通信の技術は急速に進歩してきており、それに伴って日頃の社会生活も変わってきました。今回は日頃の生活にかかわるこれらの技術の舞台裏や仕組みなどを、苦手と感じておられる方にもわかりやすく、身近なものとして楽しく活用していただけるよう、ご説明したいと思っております。
<b>第2回</b> <b>9月15日</b> 淡野 明彦 奈良教育大学名誉教授	<b>【世界文化遺産の「古都」を巡る】</b> 独自の歴史的伝統をもつ都市が世界文化遺産に登録されています。今回はヨーロッパの古都であるスイスの「ベルン」、「ザンクト・ガレン」、チェコの「プラハ」、「チェスキー・クロムロフ」を巡りましょう。
<b>第3回</b> <b>10月20日</b> 市川 邦彦 山城経営研究所 顧問	<b>【街角の法律 (PART4)】</b> コロナが収まりかけたが、欧州の戦争が終わりません。そのなかで法律はどのように世の中の規律の維持(国際法による国家間の約束)に役立っているかを見ていきたいと思います。 特に私たちの日常生活は法律によって守られ、豊かな未来の生活が作られていると思っていましたが…。前回に引き続き、講師の企業法務経験をもとに、身近な裁判(判例)や事例をもとに、改めて「法律の役割や権能、法治国家とは」について ともに考えてみたいと思います。
<b>第4回</b> <b>11月10日</b> 吉國 義明 株式会社 Todo フォーラム Founder & CEO 京都先端科学大学バイオ 環境学部客員研究員 農学博士	<b>【高機能農産物で要介護者となるのを予防する研究】</b> 2000年の日本の一人当たりGDPは世界第2位でしたが、現在は22位です。少子高齢化、社会保障費の増加により日本は静かに沈んで行きます。要介護者となる第一要因は認知症。高機能農産物を開発し、日常的に摂食することにより認知症を予防する取り組みを紹介します。講義の終わりにみんなで童謡を歌います。童謡は昔の記憶を呼び起こし、認知機能を高めます。
<b>第5回</b> <b>12月15日</b> 速水 徹 立命館大学スポーツ健康 科学部 客員教授 元朝日新聞論説委員	<b>【スポーツから洞察する世界と人間 ～新聞記事を題材に～】</b> スポーツには、私たちが生きるこの世界と人間のありようが大きく投影されます。スポーツと国家、スポーツと経済、スポーツと健康…という具合に、スポーツを「のぞき窓」にして、森羅万象を見ていくことができます。新聞記者や論説委員時代に執筆した記事を題材に、スポーツを通じて世界と人間を洞察する面白さをお伝えします。 また、プロ野球の名勝負として語り継がれる村田兆治氏と門田博光氏にまつわる秘話などもご紹介したいと思います。
<b>第6回</b> <b>1月19日</b> 末次 弘幸 山城経営研究所 特任研究員	<b>【伊丹が生んだ俳人・上島鬼貫とその作品】</b> 江戸時代中期の俳人。伊丹の酒造家(屋号:油屋)・上島宗春の三男。酒造りで栄えた伊丹には文人墨客が集まり、文芸、風流が盛んでした。鬼貫も幼い頃から俳句に親しみ、8歳で「来い来いといへど蛍が飛んで行く」と詠み、世間の人を驚かせたと伝わります。その後「東の芭蕉、西の鬼貫」と並び称されるほどの存在となった鬼貫の生涯を紹介し、さらに伊丹に散在する句碑とその作品についても触れてみたいと思います。
<b>第7回</b> <b>2月16日</b> 末次 弘幸 山城経営研究所 特任研究員	<b>【歴史上の偉人に学ぶ人間力「第6話・聖徳太子」】</b> 飛鳥時代の政治家であり、宗教思想家。用明天皇の第2皇子として生まれ、初の女性天皇・推古天皇の時代に、仏教を中心とした国造りを担いました。冠位十二階や十七条憲法の制定や遣隋使の派遣などに功があったとされます。その生涯ならびに伊丹に残る太子の足跡などについて、ご紹介したいと思います。